

令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

(国語)

全国平均と比較して4ポイント、大阪府では2ポイント下回った。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、対府比で正答率が10ポイント程度の開きが見られた。一方で「読むこと」については、大阪府及び全国の平均を上回っていた、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考え、記述することができた。また記述面においても、大阪府の平均を上回った。

(数学)

全国平均と比較して11.3ポイント、大阪府平均と比較して10ポイント下回った。特に、「データの活用」領域では、対府比で正答率が14ポイント程度の開きが見られた。また「図形」領域の証明の部分において、8ポイント程度下回っていたが、同じ「図形」領域の外角の大きさを求める問題では5ポイント程度上回った。

【今後に向けて】

(国語)

「言葉の使い方に関する事項」において、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られた。各学年の語彙の指導事項の内容と関連づけ、音訓読みを意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。また、今後とも漢字の読み書きや、文法など基礎的・基本的事項の定着を推進する。また、表現力・言語力の育成を目指し、人の意見をしっかり聞き、考えていく能力や自分の考えをまとめ、表現できる能力の育成を図るため、指導方法を工夫していく。

(数学)

全国学力・学習状況調査の振り返りプリントを活用して、復習をするとともに、基礎・基本の定着を図っていく。また、普段の授業から、基礎的な計算力の向上を図るとともに、表からデータを正確に読み取る活動や、証明をする活動に取り組み、自ら考え、表現する能力の育成を行っていく。

○令和7年度 チャレンジテスト 結果より

【成果と課題】

(国語)

9年生では、平均点は6.8ポイント下回った。知識・技能に関して3.7ポイント。思考・判断・表現にしても5ポイントといずれも下回る結果となった。しかし、グラフを読み取ることや、漢文や漢字などの知識・技能などの項目が、大阪府のポイントがわずかであるが上回った。

(社会)

9年生では、平均点は大阪府と比較して6.7ポイント下回った。また大阪府と比較して、知識・技能に関しては4.6ポイント、思考・判断・表現は2.2ポイント下回る結果となった。しかし、無回答率は大阪府と比較して0.2ポイント下回ることとどまったため、設問に前向きに取り組む姿勢は身につけていると考える。

(数学)

大阪府と比較して、平均正答率は6.5ポイント、無解答率が0.5ポイント下回った。知識・技能に関しては4.6ポイント、思考・判断・表現に関しては1.9ポイント下回った。問題を解こうという意欲は感じられるので、知識・技能を身に付けていくことが課題である。

(理科)

大阪府と比較して平均点は11.5ポイント下回った。全体として無回答率が高い傾向であった。

(英語)

大阪府平均と比較して9.9ポイント下回る結果となった。短答式の解答の正答率のみ若干府平均より上回った。

【今後に向けて】

(国語)

「文章の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができる」という趣旨のところが、いずれも正答率が50パーセントを割っている。いろんな書物や問題集などを読み取り、要旨を捉えることが喫緊の課題である。

(社会)

引き続き、思考・判断を伴う活動を行い、1問1答式の学習に偏ることなく社会的事象に多角的・多面的に考える姿勢を養っていく。

(数学)

T. T. 授業を継続し、より多くの生徒の疑問に答えていく。また、基礎計算力の定着を図りながら、授業を進めていく。

(理科)

科学的用語の習得に務める。

(英語)

理解し習熟する時間の確保や、発展的な活動を授業内でも取り入れていく。また自分の意見や思いを書く練習もしていく。家庭学習との連携を図る。